

童

2021年2月26日

大地の土手に福寿草が咲きました。前年に移植した物です。これで、完全に春が来た気分になりました。ここに来て三寒四温通りの陽気が続いているのですが、今冬も結果的に暖冬少雪だったような気がします。昨年に比べたら、圧倒的に大雪でしたが。それは、除雪機の出勤回数 時間でわかります。それでも、子ども達は、たっぷり雪遊びを連日楽しんで（楽しんでる）のではないのでしょうか。たっぷり戸外で遊ぶ時間が増えましたから。

コロナの影響で大変な毎日ですが、日々の健康管理のお陰で 例年のようにインフルエンザは今のところ流行せず、集団での欠席者も少なく、健康で元気な毎日を過ごせることは感謝です。

子ども達の顔も日に日に焼けて黒くなってきました。それだけ雪遊びを楽しんでいると言う顔です。クロカンも、今年は、昨年の方を取り戻すように張り切っています。大地のクロカンは、バックカントリー的な冒険探索スキーの色合いが強いだけに、大地周辺のフィールドは最高です。わざわざスキー場や有名クロカンコースに行かなくても、大人の視点そして子どもの気持ちを考えれば、身近な野山フィールドが魅力的です。特に、誰もいない静けさ、美しさ、樹木の荘厳さ などは里山が最高です。ご存じのように、大地の山（丘）越えた場所（枿の実を取りに行く場所）はまさに北欧の雰囲気。大地周辺に雪が少なくなると、鼻見城趾。ここは 頂上有り 雪野原 平原 下り 森林探索 ありで、大人の導き次第で、無限な楽しみの宝庫です。



今年は、子ども達と一緒にクロカンを楽しんだお陰で、公私共々、冬山を登山 スノーシュー テレマークで楽しみました。アルペンスキーの出番は全くありませんでした。そのぶん、汗をたっぷりかきながら、冬の世界 景色 を堪能しました。

里は雪解けが進み、春の気配ですが、今年は山にはたっぷりの雪があるようです。雪が降り陽気が良くなり、日が延びる3月こそ、実は絶好の雪山ハイキング スノーシュー クロカンの季節です。まだまだ、冬と春を交互に楽しみましょう。

【困難】

「困難のない人生は無難な人生、困難のある人生はありがたい人生だ」という言葉が好きだと伺いました。まさに今、みんなに言い聞かせたいです。——今、一段一段、登っているのは？

「一段一段登ってるというよりは、一段一段下りないように、自分の好きなことをいつまでもできるようにしていきたいです。年齢を重ねれば緩やかに下りていきますけど、スキーの技術を磨くことや今まで滑ったことがない場所を滑るといった楽しみを見つけていきたいなと思ってます」

これは モーグルスキーで5大会オリンピックに出場した上村愛子さんの 現在のインタビューです。いい加減な記憶ですが、長野オリンピックで16歳で7位入賞。一躍脚光を浴び、その後はメダルを期待。その後のオリンピックで、6位 5位 4位 4位とメダルに届かず悲劇のヒーローのように扱われた感じでした。

困難のない人生は無難な人生、困難のある人生はありがたい人生だ この部分がとても印象的です。誰でも 困難は避けたいと思います。失敗 挫折と置き換えても良いでしょうか。失敗 挫折 困難を越えるには、必ず学びが必要です。気力はもとより、過去の体験 見極め状況判断 全て学びが不可欠。豊かで様々な体験、世界に挑戦し謳歌できる人生には、この学びが必要なだけに、それをもたらしてくれる困難こそ、ありがたい感謝すべきものだと、理解しました。もちろん、無難な人生は、それぞれの人生でそれはそれで素晴らしいと思います。一度だけのエキサイティングな人生を大好きなことをして悔いのない日々を送りたいとは思っています。

一段一段登ってるというよりは、一段一段下りないように ここも素晴らしく感じました。上村さんはまだ40歳ぐらいです。年齢を重ねれば緩やかに下りていくことは、体力的には当然のことです。これには逆らえません。ただ、守りの人生はなりたくないと思います。若い人に負けないように、周囲に負けないように突き進むのではなく、昨日の自分のいた階段より下らないように、つまり いままで登ってきた道 人生から引き返さない 年だからもう無理だ あきらめよう とするのではなく、これをいつまでも持続しよう、楽しもう と自分にハッパをかける と理解しました。素晴らしいです。

古本屋で、最近 新田次郎（山岳小説作家）の長編小説を手に入れ、感動し、久しぶりに本棚から新田次郎を取り出し、読み直しています。山岳小説だけに、雪山での遭難や、吹雪の中を生死をさまよいながら登り生還 遭難死 滑落死など、困難の連続のような物語がほとんどです。今読んでいる「孤高の人」の中に、偶然 上村さんと同じような文章がありました。

人間は 困難な立場に追い込まれば 追い込まれるほど生長する その困難な場を山に求めているのではないかとこのことであつた。その考え方は、苦行によって悟りを開こうとするバラモン教の僧と一部通ずるものがあつたが、彼はその行動を苦行だとは思っていなかった。自らの身体に鞭を当てて苦しめるのではなく、むしろ、自分の身を可愛がりながら、より困難なものへよじ登っていく姿を見つめていたかつた。（以上 孤高の人 から引用）

山へ登り始める時、最初の30分がとてもつらいと感ずります。何で好き好んで休日にわざわざ疲れることをするのだろうか？ こんな重い物を背負って何で歩かなくちゃならないのだろうか？ 早く下山して温泉に浸かりたいなあ などとかなりネガティブな気持ちの葛藤の連続です。一時間も過ぎると諦めの気持ちになり、5合目を過ぎると、あの達成感充実感が早く味わいたいなあ！ と気持ちが変化していきます。そして、頂上に着くと全ての苦労やネガティブな気持ちがすっかり消えて、逆に下山したくないなあ と思うのが登山の気持ちの過程です。

この過程で、登りの苦しい時つらい時は、ある限度を超えると、自分を痛めつけている 鞭を当てて歩かせているという境地ではなく、自分の身に対して「やってくれるじゃん まだまだ元気じゃんこの足 どんどん来いよ まだまだいけるよこの身体」などと自分が愛おしく感じてきます。まさに 自分の身を可愛がっている自分がいます。

何でも自分でやろうとすると困難の連続です。知らないわけですから。大地の園舎建築にしても機械や自動車の修理にしても、お話を覚えるにしても、料理にしても、育児にしても 運動にしても、何から何まで自分でやろうとすると困難の連続です。誰かから下請けの出してやってもらえば困難はありません。（下請けに出すお金を捻出する困難はありますが）。しかし、困難から逃げず直面して乗り越えた時のスキルは、まさに学びであり自分の財産であり、大きな感動と自信と自己肯定感が伴います。怪我にしても事故にしても災害にしても、全てが学びであり、最後は 感謝に変わります。自分のことを顧みれば、我が人生 生死を伴うような事から始まり小さな事まで、日々波瀾万丈 エキサイティング刺激的な事を良くも悪くも歩んできているような気がします。妻を始め、両親そして、多くの方々に心配をかけている人生です。その分 学びは 如何ほどか.....？

先日の稲富さん 滝澤さん の素晴らしい対談会にて **自分の病気や痛みが 愛おしくなる** これは 彼女たちが どんな人生を歩んでいるか そこから生まれてくる言葉だと 実感しています。